

# SANS CYBERVANTAGE サイバーバンテージ

## Tabletop Exercise

経営判断が試される“その瞬間”を、事前に体験する

2026年7月1日開催!



### テーブルトップエクササイズ (TTX) とは?

サイバーインシデント発生時に問われるのは、技術力ではなく**経営判断の質とスピード**です。

SANSのテーブルトップエクササイズは、経営層・幹部が中心となり、リアルなインシデントシナリオの中で

「何を優先し、どう判断し、どう説明するか」を実践的にシミュレーションします。

技術的な対応力ではなく、**有事の際に組織としてどのように判断し、連携し、対応するか**に焦点を当てています。実際のインシデントをもとにしたシナリオが段階的に展開され、参加者は状況を評価し、優先順位を判断しながら意思決定とコミュニケーションを行います。

### なぜ今必要なのか?

多くの組織が計画を持っています。

しかし実際の危機では、「計画通りに動けるか」ではなく「その場で判断できるか」が問われます。

この演習では、以下を明らかにします:

- ▶ 意思決定の遅れやボトルネック
- ▶ 経営層と現場の認識ギャップ
- ▶ 不明確な責任・権限・エスカレーション
- ▶ 対外コミュニケーションの脆弱性

「問題が起きてから気づく」のではなく、事前に可視化し、対処することができます。

また、エネルギー、通信、金融、製造など異業種の参加者とともに実施することで、**業界を越えた知見の共有や連携強化**も期待できます。

サイバーインシデントはサプライチェーンや社会インフラに波及するため、こうした横断的な視点は非常に重要です。

### 経営層にもたらす価値

- ▶ 危機下でも機能する意思決定プロセスの確立
- ▶ 組織全体の対応力とスピードの向上
- ▶ 経営としての説明責任への備え (株主・顧客・社会)
- ▶ 経営チームとしての共通認識と即応力の強化

これは単なる訓練ではなく、「**経営リスクへの投資**」です。

### SANSのTTXの特長

実際のインシデント対応を経験してきたSANSの専門家が主導します。

今回担当Cyber Vantageの担当をするTim Conwayはウクライナ電力網攻撃 (CRASHOVERRIDE) など、国家レベルの重大インシデント分析に関わった実績をもっており、**現実**に即した**意思決定の難しさ**を再現します。

さらに:

- ▶ 日本の事業環境・規制・リスクを踏まえた設計
- ▶ アクティブ・サイバー・ディフェンスの視点を反映
- ▶ アジア各国での実績に基づくベストプラクティス

机上の理論ではなく、**実際に通用する判断力**を養います。

サイバーインシデントは「起こるかどうか」ではなく、「いつ起こるか」の問題です。

そのとき、経営として「**適切に判断できる準備ができて**いるか」

この演習は、その問いに答える機会です。



詳細は[Japan@sans.org](mailto:Japan@sans.org)  
または担当者へご連絡ください。

+81 3 3242 6276 | [japan@sans.org](mailto:japan@sans.org) | @SANS\_JAPAN

今回、SANSでは、日本ではあまりなじみのないテーブルトップ・エクササイズを、弊社で準備した模擬シナリオを用いて、参加者の皆様にテーブルトップ・エクササイズを行う目的やポイント、方法などを擬似的に体験していただきます。

お申し込みは組織関係チームの皆様複数名でも、お一人の参加でも問題ありません。

各国で多くの政府機関、企業、組織に対して、トレーニングを行った経験豊富な講師が皆様の疑問に答えながら、

実践的なトレーニングの方法について解説をします。

**参加費無料でこのようなトレーニング体験は、あまりない機会ですので是非積極的に参加をして頂き、皆様の組織の対応力強化に繋げて頂ければ幸いです。**

### Tabletop exerciseとは？

サイバーインシデント発生時に問われるのは、技術力ではなく経営判断の質とスピードです。

SANSのテーブルトップエクササイズは、経営層・幹部が中心となり、リアルなインシデントシナリオの中で

「何を優先し、どう判断し、どう説明するか」

を実践的にシミュレーションします。

技術的な対応力ではなく、有事の際に組織としてどのように判断し、連携し、対応するかに焦点を当てています。実際のインシデントをもとにしたシナリオが段階的に展開され、参加者は状況を評価し、優先順位を判断しながら意思決定とコミュニケーションを行います。

### なぜ、いま必要なのか？

多くの組織が計画を持っています。

しかし実際の危機では、「計画通りに動けるか」ではなく「その場で判断できるか」が問われます。

この演習では、以下を明らかにします：

- ▶ 意思決定の遅れやボトルネック
- ▶ 経営層と現場の認識ギャップ
- ▶ 不明確な責任・権限・エスカレーション
- ▶ 対外コミュニケーションの脆弱性

「問題が起きてから気づく」のではなく、事前に可視化し、対処することができます。

また、エネルギー、通信、金融、製造など異業種の参加者とともに実施することで、業界を越えた知見の共有や連携強化も

期待できます。サイバーインシデントはサプライチェーンや社会インフラに波及するため、こうした横断的な視点は非常に重要です。

### テーブルトップエクササイズ タイムテーブル

10:00-10:30	●	開場・受付
10:30-11:00	●	テーブルトップエクササイズ概要説明
11:00-12:00	●	Move 1 - ITに焦点を当てた影響について
12:00-13:00	●	休憩(昼食)
13:00-13:50	●	Move 2 - ITからICS/OTへの転換、運用上の見通しの欠如
13:50-14:00	●	休憩
14:00-15:30	●	Move 3 - ネットワークおよびエンドポイントのフォレンジック調査、制御機能の運用上の操作
15:30-15:40	●	休憩
15:40-16:30	●	Move 4 - 復旧と情報共有
16:30-17:00	●	まとめ



詳細は[Japan@sans.org](mailto:Japan@sans.org)  
または担当者へご連絡ください。

☎ +81 3 3242 6276 ✉ [japan@sans.org](mailto:japan@sans.org) 📷 @SANS\_JAPAN

